

教えて!

富山 けいざい



ARってなあに？

◆現実空間に情報付加、市場規模1.7兆円へ

ブン子さんは、北陸経済研究所（富山市）の藤貴伸研究員に質問しました。

Q－どんな意味かな。

A－「Augmented Reality」の略で「拡張現実」と訳されます。現実の世界に、文字や画像、音声などの情報を重ねて表示することで、目の前にある現実空間を拡張させる技術です。ARとセットで語られる技術として「VR(Virtual Reality 仮想現実)」があります。VRは、人工的に作られた世界にユーザー自身が入り込み、あたかも現実であるかのように感じさせるもので、ARとは似て異なる技術です。



Q－どのように使われているの。

A－ARの活用事例では、世界中でブームとなったスマートフォン用ゲーム「ポケモンGO」が知られています。キャラクターがスマートフォンの画面内で現実の風景と重なって表示されることで、まるでキャラクターが現実世界に表れたように感じられます。またGoogleは「Google 翻訳」アプリの中で、AR技術を活用した「Word Lens」機能を提供しています。街角の看板や本、パソコンのモニターなどに表示された英語の文字を、スマートフォンのカメラで写すと、日本語に自動的に翻訳してくれるというものです。また、家具販売のIKEAは、「IKEA カタログ」というアプリの中で、ARを使って家具配置のシミュレーションができる機能を提供しています。

Q－県内でも活用されているのかしら。

A－県商工会議所連合会が発行した「富山産業観光図鑑2018」では、専用アプリを起動し、ページを撮影することで、産業観光施設の詳細な情報や、産業観光実施企業のHPが閲覧できるようになっています。

Q－今後はどうなるの。

A－IT専門調査会社「IDC Japan」（東京）の調査によると、世界のAR・VR市場規模は2021年に約1600億ドル（約1.7兆円）に達するとされています。流通業や製造業を中心にビジネス分野の活用が急速に広がると見込まれています。